

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 32 号	氏名	鈴木 正敏
学位審査委員	主査	朝長 万左男	
	副査	関根 一郎	
	副査	岡市 協生	
	副査	松田 尚樹	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、放射線によって生じた DNA 二重鎖切断の修復課程の全貌を明らかにするために、切断修復後も残るクロマチン構造変化部位に着目して、修復部位に生じるとされるヒストン H2A フォーカスが同部に持続的に存在し続けるかを検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 著者らのリン酸化ヒストン H2A フォーカスが長時間存在し続けるという従来からの観察に基づき、分裂期に見られる染色体架橋において観察される交換型染色体異常部位に着目して同フォーカスをみる研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 DNA 二重鎖切断直後のみならず長時間同フォーカスがクロマチン構造変化部位である染色体架橋において観察されたことは、ヒストン H2A がクロマチン構造変化部位でリン酸化を受け続けていることを示唆している。</p> <p>以上のように本論文は放射線照射による DNA 二重鎖切断の修復機構の全貌の理解に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（学術）の学位に値するものと判断した。</p>			